

高エネルギー密度プラズマ生成・発展の理論モデル

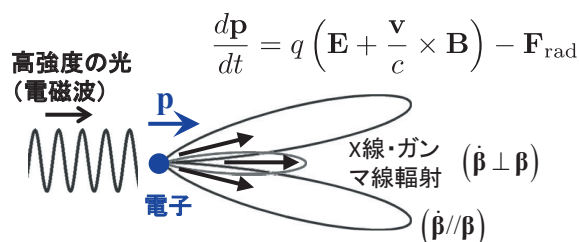
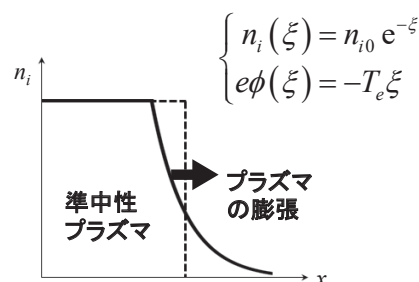
Physics of laser-driven high energy density plasmas

岩田夏弥 教授

共同者: 千徳靖彦教授、佐野孝好准教授

電磁気学、相対論的力学、統計物理学、流体力学等を基礎とした理論構築

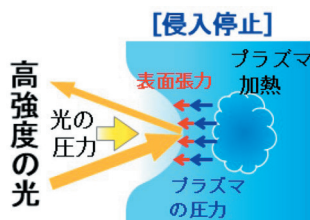
高強度レーザー光が生成するプラズマの基礎物理を明らかにするため、電磁気学、相対論的力学、統計力学、流体力学などを基礎とした理論構築を行っている。光電磁場に加速される電子のミクロな運動を解いたり(下図)、電子の統計的挙動やプラズマ全体としての流体的膨張(右図)などマクロな振る舞いを記述する方程式を作ることにより、複雑な相互作用の中の基礎過程を明らかにする。高強度レーザーが生成するギガバール級の高圧プラズマの物理の理論的理解は、宇宙空間や核融合装置などで見られる様々な現象の解明に貢献できる。



応用1

レーザーによる
プラズマ加熱の基礎理論

高出力レーザーにより光を時空間的に圧縮することで、10億気圧を超える地上最強の圧力を実現できる。このような高強度光は、光圧で固体表面を押し進みながら物質(プラズマ)を加熱していく。最近の研究では、加熱されたプラズマが光を押し戻す現象や、光照射面から物質内部へと高温(およそ1000万度)の領域が高速で広がっていく現象を明らかにした。このような光と物質の相互作用の基礎的理解は、様々な学術・技術応用の基盤となる。



[大阪大学プレスリリース]

https://resou.osaka-u.ac.jp/ja/research/2018/20180212_1

応用2

宇宙物理学

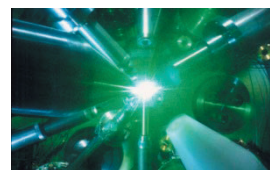
恒星内部や宇宙空間は、多くの領域がプラズマに満たされている。高強度レーザーを用いてプラズマの基本的性質を調べることで、宇宙における粒子加速や磁場生成の謎に迫ることができる。



応用3

レーザー核融合

太陽内部に匹敵する高温・高密度にプラズマを圧縮・加熱できれば、核融合反応からエネルギーを取り出すことができる。化石燃料に頼らない究極のエネルギー源を目指して、核融合エネルギー開発の研究が進められている。



グループHP

<https://www.ile.osaka-u.ac.jp/research/thr/>

キーワード

高強度レーザープラズマ相互作用、高密度プラズマ加熱

